仙台南部流域治水出張所だより～♪

あぶたんつうしん 260 Go!

発行日 ： 令和7年10月30日
発 行 ： 国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所 仙台南部流域治水出張所
〒989-2441 岩沼市館下1丁目2番9号 ☎0223-22-2801 FAX:0223-22-2802

当出張所職員がRAC講習会※を受講しました

※川での安全で楽しい体験活動を普及するための指導者育成講習会

9月17日･18日の2日間行われたRAC講習会に職員が参加しました。初日の座学で身につけた川の安全や水生生物調査の知識をもとに、2日目は名取川で実技講習を行いました。

（受講職員の声）
講習では安全に関する知識はもちろん、その日の川の状況確認や服装などの装備が大事であることを再確認しました。学んだことを今後の業務に活かします。



川に触れれば子どもは身近な川を少しずつ意識するようになり、次第に地域の自然を愛する心が芽生えます。
また、最初は川に入るのを躊躇していた保護者も、子どもが楽しそうに活動を行っているのを見ると、意識が変わってくるようです。

より多くの人が川を意識することが
より良い河川環境につながるんだっちゃ！

10月6日 船上巡視



船上巡視は、通常行っている
パトロール車での巡視では見えにくい護岸の変状や
橋脚周辺など、陸上から発見しづらい異状を早期発見
することが目的です。

巡視当日は川の流量が少なく、浅瀬ではオールを使って川底を押して進みました。



異状ナシ

阿武隈川を渡る

柴田町槻木と亘理町小山をつないだ
阿武隈川を渡河する宮城県内最後の渡し舟「小山の渡し」

亘理と岩沼の間には、明治時代に至るまで橋はありませんでした。
阿武隈川下流域で最初の橋は、常磐線開通とともに架橋された阿武隈川橋梁。1897年（明治30年）に完成した橋は鉄道専用で、人馬の通行はできませんでした。

んん!? 橋ができる前はどうやって川を渡っていたの？

昔は阿武隈川を渡るためにいくつかの船場がありました。
丸森～岩沼間には約20箇所の渡し場があったと言われています。
「小山の渡し」は現在の槻木大橋にあった渡し場。
亘理町逢隈地区の小山･田沢の住民が、槻木駅から鉄道を利用するときや槻木に買い物に行くときに多く利用されました。
1961年宮城県営の渡しとなり、1995年の槻木大橋架橋までは渡し賃無料で利用できました。



槻木下町に現存する渡し場への案内標識「わたりへの道しるべ」文化2年（1805年）製

船頭小屋は小山地区にありました。
（昔は槻木にもあったが大風でこわれてしまったそう）
槻木地区から乗船するときは、対岸にむかって大声で船頭さんを呼んだようです。川が浅いときには、船をつないである場所まで夏は裸足で川の中を歩いて行って乗船したこともあったとか（冬は船頭小屋に用意された長靴を借りて川を歩いたんだって）。



船頭小屋

1975年頃の記録によると…
一日の利用者数：40～50人
営業時間：夏期6:00～18:30
冬期7:00～17:30
使用船：船外機付木造船（定員15名）



平成7年7月7日。槻木大橋（橋長777.77m）開通式に先立って行われた小山渡しの閉船記念乗船。本乗船をもって阿武隈川下流域の「渡し舟」は姿を消し、現在は槻木大橋両岸に渡し舟を偲ぶ記念碑が残されています。



槻木にある小山渡舟場歴史公園→
大きく湾曲した遊歩道は阿武隈川の河道を、遊歩道を挟む2つの木板は渡し場を、山の形をした石碑は蔵王山を模しているように見えます。

参照：『渡し舟』 北井一夫著
『阿武隈川下流の渡し場と橋梁』阿武隈川の歴史と文化を語る会編

令和7年度総合防災訓練を行いました

毎年、東北地方整備局で防災週間（8月30日～9月5日）に実施する『総合防災訓練』。
本年度は8月の前線に伴う大雨災害対応により、当初の日程を変更して10月3日に実施されました。
東日本大震災の経験を踏まえた総合的な訓練で、綿密なシナリオがあらかじめ用意され、
災害協定団体や自治体との連絡訓練のほか、被災状況を調査するためのヘリコプターも実際に出動します。
仙台南部流域治水出張所も訓練に参加し、非常時における連絡体制の再確認を行いました。

＜河川堤防対応＞

・遠隔カメラで堤防の被災状況を確認
・河川緊急巡視指示（津波想定外地区）
・津波警報解除後、津波影響区間内の河川緊急巡視指示
・被災箇所の応急復旧指示
・災害復旧計画の策定



令和7年度訓練の想定シナリオ

9:20　宮城県沖で地震発生、震度6弱を観測
　　非常体制に入る

9:23　津波警報発令、津波予想高3m

10:10　地震で被災した工場から劇物流出の通報、
　　阿武隈川下流域に水質事故警戒体制発令

10:40　津波警報解除

11:30　水質事故警戒体制解除

11:40　非常体制解除

＜人的対応＞

・職員の安否と所在確認
・樋門・樋管操作員と工事請負会社の人的被害確認

＜津波対応＞

津波の阿武隈川遡上に備え、新浜水門の遠隔操作と阿武隈川につながる樋門・樋管の閉鎖を指示



＜許可工作物対応＞

橋など川に架かる工作物の被災状況を緊急巡視

＜水質事故対応＞

阿武隈川への劇物流入を緊急巡視　→流入が認められた場合は、取水制限等の処置

ここで紹介したのは阿武隈川についての訓練内容。
当出張所の管轄には山元町の海岸も含まれているので、同時並行で海岸の対応訓練も行っているっちゃよ～



災害時における出張所の役割は、いち早く被災状況を確認し上層機関に報告すると同時に応急復旧作業に携わる方々に的確な指示を出して早期復旧につなげること。
報告が遅れれば迅速な応援は望めず、現場への指示が曖昧だと二次災害を招きかねません。

年に1度の総合防災訓練は、地方整備局挙げての最重要行事といえます。

10月17日　安全講習会

参加者全員で現場の危険箇所をチェック！



事故を未然に防ぐための手厳しい意見が飛び交うっちゃ



班ごとにディスカッション&発表！

河川や道路を安心して利用できるのは、施工業者さんがしっかり工事をしてくれるから。土木工事では、大型機械を使ったり足下の悪いところに立ち入ったりと、注意が必要な作業があります。
今回の講習会では、約20の工事会社と大河原労働基準監督署からの講師を迎え、総勢40名余りで実際に施工中の現場に立ち入り、安全対策についてのディスカッションを行いました。
施工中の事故を少しでも減らすために、建設業界では官民一体となって安全対策に力を注いでいます。

安全対策に絶対はありません。その時点、その時点で考えられる今の技術とコストで出来得る、最大限のことをする義務があるのです。



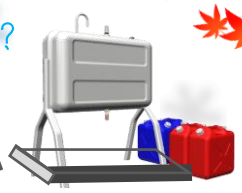
なにしてるっちゃ？？

10月9日 仙台河川国道事務所で行われたのは、
『令和7年度 川をきれいにする児童図画・ポスター』
一次選考会。力作揃いに芸術の秋を感じたっちゃ♪

阿武隈大堰紹介ドローン動画できました！
仙台河川国道事務所インスタグラム

本格的な寒さの前に
ホームタンクの点検をしましょう

油臭くはない？　腐食・裂け目はない？
配管のつなぎ目に油にじみはない？
揺らしたら倒れない？
受け皿があると安心



油漏れの回収・処理費用は、原因者の負担だっちゃ😱
寒くなる前の点検で水質事故を防ぎましょう。